

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業

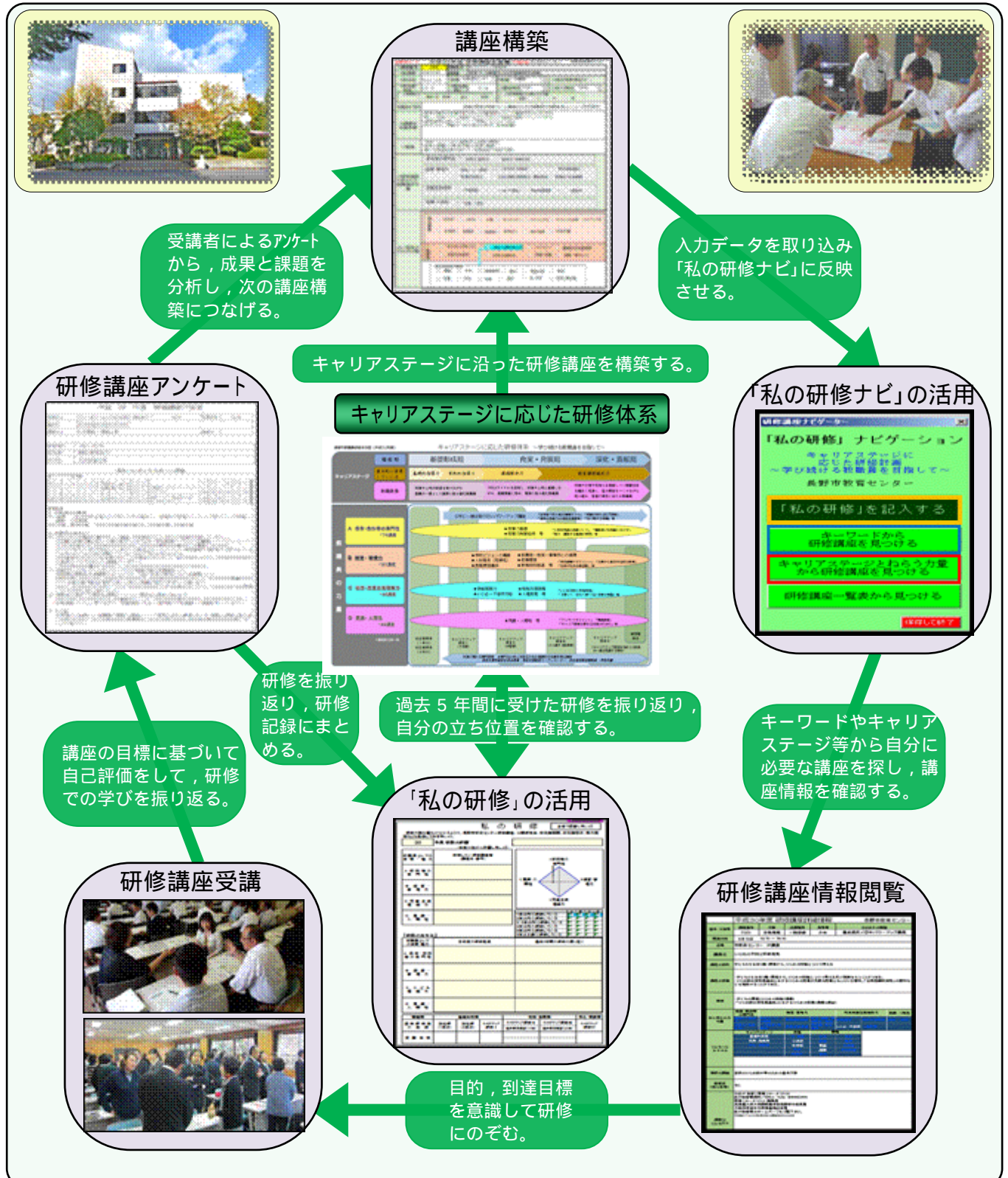
実 施 報 告 書

プログラム名	小・中・高を一貫する系統的な教育課程の編成と教育実践に向けた教員の カリキュラム・マネジメント能力育成のための研修プログラムの開発
プログラムの 特徴	これまでに開発した「地域素材の教材開発研修プログラム」や「初任者研修 からミドルリーダー研修までの一貫研修プログラム」等を発展させ、新学習指導 要領実施に向けて有効に機能する研修プログラムの開発を試みた。 新学習指導要領の内容構成と実施に向けたカリキュラム・マネジメントの必要 性の十分な理解を図る研修を開設し実証した。 キャリアステージに応じた研修計画、「私の研修」(研修履歴)の活用方法を 見直し、それらに関連する研修講座の個票、研修講座検索システムを開発した。 授業力向上に対する校内研修や自己研修を行うことができるように、研修用 ビデオ教材を作成した。

平成 3 0 年 3 月

機関名 長野市教育委員会 連携先 国立大学法人信州大学

プログラムの全体概要



研修用ビデオ教材を活用する校内研修

校内研修を通して、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。

教員研修ビデオ教材
～教員研修プログラム開発研究会～

【学力向上研究委員会】

- 【国語科】 長野市立小中学校 国語 単元「うさぎとつばね」
- 【社会科】 長野市立小中学校 社会 単元「国の発展の仕組み」
- 【算数・数学科】 長野市立小中学校 算数 単元「割合」

【学校体育・学校保健研究委員会】

- 【理科】 長野市立小中学校 理科 単元「光と影」
- 【保健体育】 長野市立小中学校 保健体育 単元「健康と生活」

開発の目的・方法・組織

1．開発目的

新学習指導要領に向けて中教審の答申では、幼・小・中・高を一貫した教育内容の系統性が重視され、あわせて教育課程を編成するための教師の資質能力としてカリキュラム・マネジメントの重要性が示された。しかし、近年の学校現場では、少子高齢化にともなう学校の小規模化や教員の年齢構成の片寄りがあり、本来日常業務の中でOJT型研修として充実すべき「カリキュラム・マネジメント能力の向上」も難しい状況が見られる。

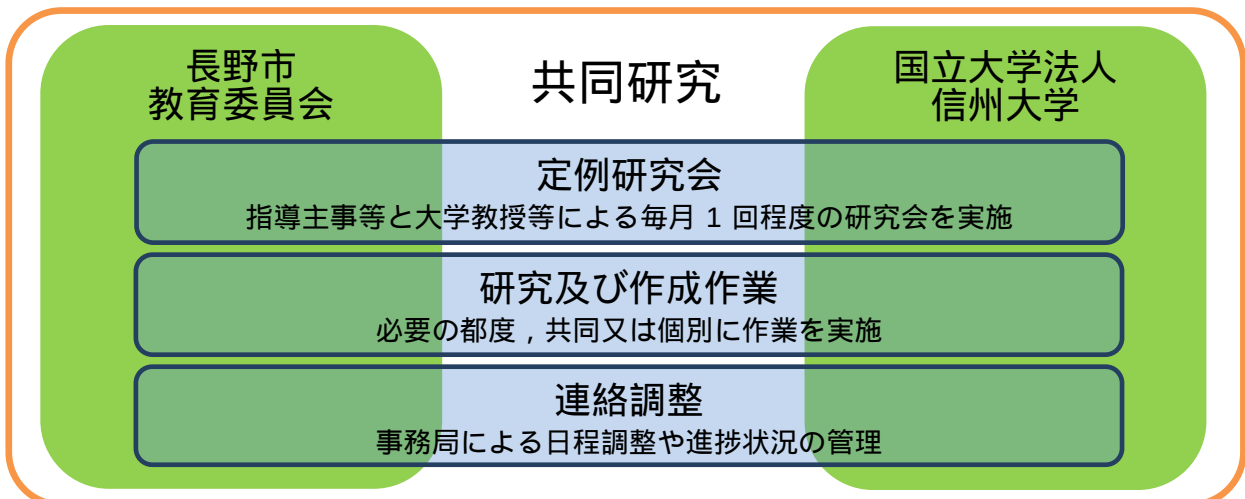
そこで、本プログラム開発では、これまで長野市教育委員会と信州大学との連携で開発・実践している、採用時から一貫した教員研修プログラムをベースに、新学習指導要領に対応するため、「小・中・高を一貫する教育課程の実施に向けた、教員のカリキュラム・マネジメント能力育成のための研修プログラム」の開発を目的とした。

2．開発の方法

長野市教育委員会は、信州大学と連携し、教員研修プログラム開発研究会を設置し、以下の開発を行う。

- (1) 長野市がこれまでに実施してきた研修を活かしながら、本プログラム開発の目的である小・中・高を一貫する教育課程の実施に向けた教員のカリキュラム・マネジメント能力育成のために研修内容を検討・実施し、検証を行う。研修内容は、講義中心の研修にならないように、各学校の取り組み及び自らの研究や実践の情報を交換したり、討議したりして、互いの教育実践の共有化を図ることができる研修にする。また、研修成果の検証は、受講者によるアンケート調査を行い、講座担当者が成果、課題について分析を行う。
- (2) 教員一人一人が自らのキャリアアップを図る視点から、本年度より使用しているキャリアステージに応じた研修計画、「私の研修」(研修履歴)の活用方法、研修講座の個票、研修講座の目的と到達目標の見直しと研修講座検索システムを開発する。
- (3) 長野市教育センター教育研究委員会の公開研究授業をもとに力量向上に対する校内研修や自己研修ができるように、研修用ビデオ教材を作成する。

3．開発組織



No	所属・職名	氏 名	担当・役割	備 考
1	長野市教育長	近藤 守	主申請機関代表	事務局 事務局 事務局
2	長野市教育委員会教育次長	熊谷 久仁彦	所管教育機関との調整	
3	長野市教育委員会学校教育課長	上石 秀明	教育委員会事務局の調整	
4	長野市教育センター所長	石塚 弘登	研究:連携調整・カリキュラム開発	
5	長野市教育センター所長補佐	長谷川 浩一	主申請機関担当者:庶務・調整	
6	長野市教育センター主任指導主事	今井 睦俊	研究:カリキュラム開発	
7	長野市教育センター指導主事	上原 伸	研究:連携調整・カリキュラム開発	
8	長野市教育センター指導主事	高木 淳	研究:カリキュラム開発	
9	長野市教育センター指導主事	木村 公男	研究:カリキュラム開発・研修教材開発	
10	長野市教育センター指導主事	大上 みどり	研究:カリキュラム開発・研修教材開発	
11	長野市教育センター指導主事	中澤 康匡	研究:カリキュラム開発	
12	長野市教育委員会主任指導主事	唐木 英俊	研究:カリキュラム開発・研修教材開発	
13	長野市教育委員会指導主事	小山 勲	研究:カリキュラム開発・研修教材開発	
14	長野市教育委員会指導主事	佐々木 秀	研究:カリキュラム開発・研修教材開発	
15	長野市教育委員会指導主事	大日方 正壽	研究:カリキュラム開発・研修教材開発	
16	長野市教育委員会指導主事	直江 将志	研究:カリキュラム開発・研修教材開発	
17	長野市教育委員会指導主事	片山 ますみ	研究:カリキュラム開発	
18	長野市教育委員会指導主事	山戸 俊彦	研究:カリキュラム開発・研修教材開発	
19	長野市教育委員会指導主事	伊藤 幸信	研究:カリキュラム開発	
20	信州大学教授	小山 茂喜	研究:カリキュラム開発・研修教材開発	教育方法
21	信州大学准教授	谷塚 光典	研究:カリキュラム開発・研修教材開発	教師教育
22	信州大学准教授	荒井 英治郎	研究:カリキュラム開発・研修教材開発	教育行政学

開発の実際とその成果

1. カリキュラム・マネジメント能力育成を目的とした研修について

平成28年度までの研究成果を活用し、さらに発展深化したプログラムを開発する。これまでに開発した「地域素材の教材開発研修プログラム」や「初任者研修からミドルリーダー研修までの一貫研修プログラム」等を発展させ、新学習指導要領に向けて有効に機能する研修プログラムの開発を目指す。具体的には、平成29年度に下記の講座を開設し、実証した。

- (ア) 講義・演習「学力格差を克服するために」
- (イ) 講義・演習「中堅教員に求められる資質と能力」
- (ウ) 講義・演習「次期学習指導要領の理念と実践」
- (エ) 講義・演習「校長マネジメント研修」
- (オ) 参観・講義・実習「信じて、任せて育てる保育の実際」
- (カ) 参観・講義・演習「中高一貫教育の理念」
- (キ) 講義・演習「キャリア教育の一層の充実を求めて」

[平成29年度 カリキュラム・マネジメント能力育成・向上を目的とした研修講座一覧]

講座名	時数	目 的	研修の概要	講師
学力格差を克服するために	160分	社会学の視点から学力格差の背景を学び、演習を通して、学力格差を解消させて学力を向上させている学校の取り組みを参考に、カリキュラム・マネジメントの視点で自校の学力格差解消と学力向上の方策を考える。	「社会的視点から考える学力格差と効果的な指導をしている学校の7つの特徴」の講義 - 各校の学力向上に向けた年間計画に基づいた情報交換	市教委指導主事 大学教員
中堅教員に求められる資質と能力	160分	校内で授業力を向上するために授業研究を実施する際に、教科の系統性や単元展開や単元の配列、さらには、学年間や小学校・中学校・高校間の教科の系統性と学習内容のつながり等を意識した教材研究のあり方、授業設計、授業研究のあり方について演習を通して学ぶ。	- 非違行為根絶のための研修 「新学習指導要領の方向性」と「主体的・対話的で深い学び」の講義 - 校内研究や校内研修等における中堅教員の役割についてのパネルディスカッション	市教委指導主事
次期学習指導要領の理念と実践	160分	次期学習指導要領の理念を学ぶとともに演習を通して、次期学習指導要領の理念を実現するために、受講者自身の学校の教育課程を見据えて教育目標達成のために教育内容をどう配列したらよいか考え、カリキュラム・マネジメント力を向上させる。	「現在の教育事情と次期学習指導要領の理念、主体的・対話的で深い学びの実現の講義	国立政策研究所 総括研究官
校長マネジメント研修	160分	「コミュニティー・スクール」の理念を学び、小学校と中学校のカリキュラムの系統性や関連を理解するとともに、小学校と中学校の関係の中で、演習を通して、自校のカリキュラムの課題と改善点を把握する。	「長野市教育の方向と課題」についての講話 「学校の信頼回復のための校長の役割」の熟議 「非違行為根絶・信頼回復 スクールコンプライアンス」の講義	長野市教育長 大学教員
信じて、任せて育てる保育の実践	160分	保育の理念・実践を体験的に学び、保育と小学校や中学校の教育実践のあり方やカリキュラムが発達段階をどのようにとらえ、どのように脈絡づけられ、関連づけられているかを把握する。	- 園内見学、保育参観及び実習 「幼児期に育てたい生活力」の講話	保育園園長
中高一貫教育の理念	160分	併設型中高一貫教育校である「長野市立長野中学校」と「長野市立長野高校」のカリキュラムを学び、中学校と高校のカリキュラムがどのように関連し、系統づけられているかを理解する。	- 市立長野中高の授業参観 「市立長野中高にける6年間の教育課程」の講義 - 授業を参観しての意見交換	市立中高校教諭 市教委指導主事
キャリア教育の一層の充実を求めて	160分	受講者同士の「自校のキャリア教育の実践状況と課題」を発表し合い、自校のキャリア教育のこれからの改善点と方向性を考える。キャリア教育の視点から見た小学校と中学校の関連や系統性について理解を深める	- 新学習指導要領におけるキャリア教育の方向性を含めたキャリア教育の推進に関する最新の動向と具体例についての講義 - 自校のキャリア教育全体計画をもとにして、キャリア教育の現状についての意見交換	国立政策研究所 総括研究官

実施期日	2017/05/08
担当室	研修・研究担当
担当者	主任指導主事

【アンケート結果】

年代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	職種	教諭	講師	管理	その他	未記入		A	B	C	D	E	未記入
人数	3 (4%)	14 (18%)	34 (43%)	27 (34%)	0 (0%)	1 (1%)	人数	71 (90%)	0 (0%)	4 (5%)	0 (0%)	4 (5%)	本講座は、あなたにとってよいものだったか。	31 (39%)	32 (41%)	6 (8%)	3 (4%)	1 (1%)	6 (8%)
													演習・テキスト・資料等の内容は、今後に役立つか。	30 (38%)	31 (39%)	10 (13%)	2 (3%)	0 (0%)	6 (8%)

1 研修講座の概要

- 5 -

平成 29 年度 研修講座の反省

研修区分	中堅教諭等資質向上研修	講座番号	2421	受講者数	23 名
講座名	中堅教員に求められる資質能力				
講師氏名	指導主事			連絡先	

実施期日	2017/05/19
担当室	研修・研究担当
担当者	指導主事

講座の反省と次年度への課題

【考察】

1 研修講座の概要

- (1) 講義「非違行為根絶のための研修」講師 警察署生活安全課長
- (2) 講義「中堅教員に求められる資質能力」指導主事
- (3) パネルディスカッション「長野市の課題を校内研究につなげるために」

2 受講者の感想より

- (1) 非違行為根絶に向けて
 - ・非違行為の要因について、異性関係、お金、お酒、いずれも私たちの身近にあるもので、自分も家族も注意していかなければと改めて感じました。また、コンビニの駐車方法1つでも、事故に巻き込まれないようにするために、自分で気をつけていく必要があるのだと分かったので実践しようと思います。
 - ・非違行為の研修を受ける度に、自分には関係ないという気持ちがあることを実感してしまう。しかし、そういう気の緩みが取り返しのつかないことにつながってしまうのだと思います。非違行為の研修を今、必要に迫られて各校で取り組んでいると思います。研修ではなく、日常生活の振り返りが人間関係を深める機会と捉えていきたいと思っています。
- (2) 新学習指導要領の方向性」と「主体的・対話的で深い学び」について
 - ・答えのない時代を生き抜いていく子どもたちに、答えを教え込むような授業をしていては、新しい時代を生きる子どもを育てられないと感じた。特に社会科という教科は、生きる力に直結してくので、新学習指導要領で求められる力、方向性をしっかり学んでいきたい。
 - ・自分に足りない視点、授業の考え方等、学ばせていただきました。「主体的に学ぶ」は自己課題にしていますが、今の自分に足りないことだからこそ、難しさが大変大きいです。中堅研を通して、少しでも子どもたちのためになる授業にできるように考えていきたいと思いました。
 - ・部分だけに目を向けず、全体に目を向けられるようにしたい。（しかしなかなかできない）授業を構想するにあたって、教科の系統性や教科間のつながりを自分自身が知ることがまずは大切だと思った。
 - ・横断的に見る。大事にしたいと思いました。私は子どもたちの成長を点ではなく線でとらえる教師でありたいと思い、幼～高の免許をとりました。けれど、実際には、日々の忙しさを言い訳に点の教育が多くなっています。これを機に、組織でも授業でも広い視点で見る実践をしていきたいです。
- (3) 校内研究や校内研修等における中堅教員の役割についてのパネルディスカッションについて
 - ・同じ中堅研の2人の話を聞いて、校内での自分の役割やこれまでの自分の働きぶりを振り返りました。もっと周りに目を向けて与えられた校務に意欲的に取り組んだり、自分の考えや思いを伝えたりしていかなければならない立場なんだろうということを思い知らされました。今、自分が変わらなければならない時なんだと思いました。
 - ・年上の先生と話す、教えていただく機会は多いけれど、年下や同年代の先生に対しては、待ちの姿勢という話はまさに自分だと感じました。年下を育てていく立場という自覚が低かったのですが、立ち位置を自覚して、年下の先生へ声をかけ、困っていることを知り、力になれるようにしたいと思いました。

3 反省と次年度への課題

- ・研修の中に受講者同士で情報交換する時間やパネルディスカッション等により、研修者同士の教育実践を話し合うことで、中堅の役割や今後の方向、視野を広めていくことなど中堅教員のあり方について具体的に考えていく機会となった。次年度も継続して研修を進めていく。

平成 29 年度 研修講座の反省

研修区分	学力・体力の向上を図る研修	講座番号	4311	受講者数	40 名
講座名	次期学習指導要領の理念と実践				
講師氏名	国立教育政策研究所総括研究官			連絡先	

実施期日	2017/06/26
担当室	研修・研究担当
担当者	指導主事

講座の反省と次年度への課題

【アンケート結果】

年代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	職種	教諭	講師	管理	その他	未記入		A	B	C	D	E	未記入
人数	1 (3%)	6 (15%)	19 (49%)	13 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	人数	30 (77%)	5 (13%)	4 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	本講座は、あなたにとってよいものだったか。	27 (69%)	11 (28%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (3%)
													演習・テキスト・資料等の内容は、今後役に立つか。	17 (44%)	20 (51%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (3%)

【考察】

1 研修講座の概要

講師 国立教育政策研究所 総括研究官

テーマ 次期学習指導要領の理念と実践 ～主体的・対話的で深い学び～

・現在の教育事情と次期学習指導要領の理念

・主体的・対話的で深い学びの実現

2 受講者の感想から

(1) 全体を通して

・様々なキーワードが取り上げられ耳にして調べては見るものの、しっかり理解できていないというのが現状でした。主体的・対話的で深い学びのある授業をどのようにつくっていけばよいか、どのような姿が深い学びなのか...一端が見えてきたように思います。

・道徳の教科化や外国語活動の増設ということに気持ちが向いており、理念についてはしっかりと学ぶということをしなかった。今回参加させていただき、全体像が理解できた。

(2) 主体的・対話的で深い学びについて

・主体的・対話的で深い学びについて、何をもって深い学びというのか、「見方・考え方」が深まりのカギになってくることが分かりました。以前は、「アクティブ・ラーニング」をすればよいのか？と方法を探るようなことばかり行ってきましたが、学べる環境が大切であることを教えていただきました。

(3) カリキュラム・マネジメントについて

・そもそも「カリキュラム・マネジメント」とは何かがよく分からずに困っていたが、今日の講座で少し分かった気がする。教科の年間指導計画を、年度の終わりにだけ反省するのではなく学期ごとの評価をしてみる提案ができそうだと思っている。福井のようなスクールプランの PDCA サイクルについてももう少し調べていきたい。

3 反省と次年度への課題

・新規講座。「カリキュラム・マネジメント」を理解している受講者は 40 名中 3 名と認知度が低かった。次期指導要領の実施に向けてさらに理解を広めていくためにも講座の継続が必要である。

・小3 社会の事例を通し、主体的・対話的で深い学びについて理解が深まった。市教育センターの授業公開へとつなげ、多くの先生方に広げていきたい。

平成 29 年度 研修講座の反省

研修区分	管理職研修	講座番号	0102	受講者数	78 名
講座名	校長マネジメント研修				
講師氏名	長野市教育長・大学教授			連絡先	

実施期日	2017/07/04
担当室	研修・研究担当
担当者	主任指導主事

講座の反省と次年度への課題

【アンケート結果】

年代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	職種	教諭	講師	管理	その他	未記入		A	B	C	D	E	未記入
人数	0	0	0	54	4	9	人数	0	0	67	0	0	本講座は、あなたにとってよいものだったか。	64 (96%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)
	(0%)	(0%)	(0%)	(81%)	(6%)	(13%)		(0%)	(0%)	(100%)	(0%)	(0%)	演習・テキスト・資料等の内容は、今後役に立つか。	61 (91%)	4 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)

【考察】

1 研修講座の概要

- ア 講義 「長野市教育が目指す方向と課題」 長野市教育長
- イ 熟議 「学校の信頼回復のための校長の役割」 主任指導主事
- ウ 講義 「学校危機管理とスクール・コンプライアンス」 大学教授

2 受講者の感想から

- ア 講義 「長野市教育が目指す方向と課題」
 - ・一人一人に応じた支援を大事にし、子どもファーストの学校、そしてベテランこそ輝く学校をつくっていききたい。いかにベテラン教員を生かすか、教職員集団で学び合えるようにするか、などの新しい発想での一歩を歩み出したい。これまで以上に保護者や地域との連携・協力が欠かせないが、今年度、市教委から事業所に協力を求めたことは意義のある方向だと思われる。近藤先生のお話から、より一層職員との信頼関係をつくるために一人一人との対話を大事にしていきたいと決意した。
- イ 熟議 「学校の信頼回復のための校長の役割」
 - ・各学校の信頼回復のための取組が分かって大変参考になった。校長として取り組むアクションプランが中心に話し合われ、無理なく職員の合意を得られそうな改善策が見出せた。今すぐ取り入れたい内容も見つかった。また、自校の課題がさらに焦点化され、とても有意義な時間であった。一人で抱え込むことが多い我々だけに、今日のような機会は大変ありがたい。
- ウ 講義 「学校危機管理とスクール・コンプライアンス」
 - ・本日の講師の先生は現場の先生方と教育現場を愛するスタンスで話していただき、おかげで責任の重さはもちろん感じつつも、校長として、受身でなく意欲的に学校危機管理を推進しようという気持ちをもつことができた。生徒を守る、教職員を守るという点は校長としての重要な使命。社会環境の変化をしっかりと認識し、再度自校が抱えている危機を再点検した上でリスク管理が行えるようにしたい。
 - ・「法が門を越えて学校の中に入ってきた」という時代なのだということを痛感した。実際の裁判事例から学校としての対処方法について丁寧にご説明いただき、引き出しを増やすことができた。
 - ・「頑張っている先生方が足元をすくわれないう、バックアップするのが校長の役割である」という言葉、しっかりと心に刻んで学校経営に当たっていききたい。「外の視点から学校を見る姿勢」の大切さを教えて頂きました。

3 反省と次年度への課題

- ・集中豪雨のため緊急早退が合計 12 名（その他の理由で欠席・早退あり）。まさに危機管理をしながらの講座だった。学校教育課としっかり連絡を取り合って対応していくことの大切さを学んだ。
- ・熟議は好評であったが、坂田先生のご講義にもつながるような大きなテーマにしたが、状況によってはもっと絞った方が鋭角的な話し合いができたと思われる。テーマの設定の仕方を今後に生かしたい。

平成 29 年度 研修講座の反省

研修区分	連携・一貫・キャリア教育	講座番号	7181	受講者数	8 名
講座名	「信じて、任せて育てる」保育の実際				
講師氏名	保育園園長			連絡先	

実施期日	2017/08/07
担当室	研修・研究担当
担当者	指導主事

講座の反省と次年度への課題

【アンケート結果】

年代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	職種	教諭	講師	管理	その他	未記入		A	B	C	D	E	未記入
人数	0 (0%)	5 (62%)	3 (38%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	人数	7 (88%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (12%)	0 (0%)	本講座は、あなたにとってよいものだったか。	8 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
													演習・テキスト・資料等の内容は、今後に役立つか。	7 (88%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (12%)

【考察】

- 1 研修の概要 園内の案内 保育参観・学習
講演 「信じて・任せて育てる」保育の実際
講師 保育園園長
- 2 受講者の声
- ・落ち着いた雰囲気ですどのクラスも温かさを感じた。
 - ・園の雰囲気がとても温かく居心地の良い空気を感じた。
 - ・静かで落ち着いた雰囲気ですゆったりとしていて、子どもたちが安心して活動に取り組んでいると感じた。
 - ・「次は〇〇する」「これから〇〇がある」活動の見通しがきちんと理解できていて、やる事が明確になっているからこそ安心していられたと感じた。
 - ・2才児が自分でできることがたくさんあって驚いた。ていねいに教えてくれるのを、日々大切に積み重ねて来ているからこそその行動なのと思った。
 - ・子どもの発達段階をきちんと学び、見守ることが大切なのと思った。小学校でも同じだと思うので「うるさい・静かに」と言わなくても子ども自ら学ぶ教室を作って行きたい。「子どもを信じて」
 - ・幼保小連携が重要視される中でつながりある発達を大切にすること、子どもの成長は時や場のつながり、積み重ねによるものということをお忘れずにいたい。
 - ・年長の園児が説明をしっかりと聞いて一人一人工夫しながら木にやすりをかけていた。0才児からの積み重ねがあるのだと園長先生のお話を聞いてわかった。「小学校って楽しい？」と小学校への期待も大きいと感じた。
 - ・子どもたちの姿を認め受け入れて、やりたい・できたいという思いを小学校教育につなげたい。
 - ・園児1人1人のペースがあり、小学校ではせかしてしまうような所を3人の先生がうまく役割分担してやっていた。
 - ・親の要望に応え共に実践するという園長先生のお話があり、両者が連携できた時に大きい効果が出ると思った。
- 3 開催時期・日程 良い
- 4 来年度への方向
- 参観ではなく、参観・保育として保育士と一緒に子どもに関わってもらったことが良かった。来年も継続したい。

平成 29 年度 研修講座の反省

研修区分	連携・一貫・キャリア教育	講座番号	8522	受講者数	5 名
講座名	中高一貫教育の理念 - 市立長野中高に学ぶ -				
講師氏名	市立長野高校教頭			連絡先	

実施期日	2017/09/04
担当室	研修・研究担当
担当者	指導主事

講座の反省と次年度への課題

【アンケート結果】

年代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	職種	教諭	講師	管理	その他	未記入		A	B	C	D	E	未記入
人数	0	1	4	0	0	0	人数	5	0	0	0	0	人数	4	1	0	0	0	0
	(0%)	(20%)	(80%)	(0%)	(0%)	(0%)		(100%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)		(80%)	(20%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)
														本講座は、あなたにとってよいものだったか。					
														演習・テキスト・資料等の内容は、今後役に立つか。					

【考察】

1 研修講座の概要

- 中学校・高等学校の授業参観（5校時）
- 講義「市立長野中学校・長野高等学校における6年間の教育課程」
- 協議「中高一貫教育の取組に学ぶ」

2 受講者の感想から

- ・ ねらいたい理念や願いがよくわかりました。私自身の知的好奇心を満たす内容でした。
- ・ 中学校と高校の一貫教育から見てきたこととお互いによりポイントが見えたということで今後の可能性が見えてきたように思います。今まで、別世界というところがあったので、お互いに交流、高校の先生が中学に来たり、中学の先生が高校に行くことで、系統的なカリキュラムを考えるよいきっかけにもなると思いました。
- ・ 授業を参観させていただき、中学生の集中した学習の姿勢に感動しました。時に笑顔がでたり、くり返し発表したり、中学生らしくてとてもいいなあと思いました。高校との授業のギャップに驚きましたが、来年の高1から少しずつ授業も変わり、あと2年、5年、今の中1が高3になる時が楽しみです。
- ・ 子どもたちが自分の進路に向けて努力し、全員が自立した18歳になれるよう中高で連携して教育活動を進めていきたいと考えました。
- ・ 中高がどう融合していくのか。今後の取組や教育の理念、よい成果、よい面を発信してほしい。
- ・ 市立中の特色が見える授業が見学、参観できる日程だとさらによかった。

3 反省と次年度への課題

- ・ 当初は、外部講師の講義を組み入れる予定であったが叶わなかった講座である。講座名から難しい講座というイメージを与えたのか、現場の関心が低いのか、受講者が集まらなかった。今年度は、市立が実施する年間22回の授業公開もあったので、そちらの方が現場としては参加しやすかったものとする。
- 来年度、本講座を継続するかどうかを検討する必要がある。継続するとなると、中高の参観と併せて、市立長野中・高の教員との懇談を入れたり、来年度開園の皐月かがやきこども園（仮称）も含めた幼保小中高の連携についての講座にしたりしていくことも考えられる。

平成 29 年度 研修講座の反省

研修区分	連携・一貫・キャリア教育	講座番号	8531	受講者数	32 名
講座名	キャリア教育の一層の充実を求めて				
講師氏名	国立教育政策研究所総括研究官			連絡先	

実施期日	2017/11/06
担当室	研修・研究担当
担当者	指導主事

講座の反省と次年度への課題

【アンケート結果】

年代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	職種	教諭	講師	管理	その他	未記入		A	B	C	D	E	未記入
人数	2 (6%)	10 (31%)	10 (31%)	10 (31%)	0 (0%)	0 (0%)	人数	29 (91%)	2 (6%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	本講座は、あなたにとってよいものだったか。	22 (69%)	9 (28%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
													演習・テキスト・資料等の内容は、今後役に立つか。	17 (53%)	13 (41%)	2 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【考察】

1 研修講座の概要

- キャリア教育の現状と課題についての講義と演習
新学習指導要領におけるキャリア教育の方向性。キャリア教育に関する最新の動向と具体的な実践例
- 小・中学校別のグループでの情報交換（持ち寄った各校の「キャリア教育全体計画」をもとに）

2 受講者の感想から

- ・キャリア教育と聞いても、私はもともと「全ての活動がキャリア教育と言えるのではないか」というスタンスに経っていました。ただ、今日のお話を聞いて、確かに様々な日常的な活動がキャリア教育につながるのだけれど、ただやりっぱなしではだめで、教師としてそれらの活動をキャリア教育とつなげる意識をもって、キャリア教育の視点で声がけや指導、振り返りを行うことが大切だということを学びました。
- ・「キャリア教育＝中学の職業体験」ではないということがよくわかりました。小学校においては、発達段階に合わせて将来や仕事につながる力、社会で使える力を学習指導の中で基礎的・汎用的能力に照らしてつけていくということを考えたいと思います。
- ・キャリア教育の目標設定の方法、内容について具体例や演習を通してわかりやすく楽しく教えていただきました。まだまだお聞きしたいと思う意味深い講義でした。「○○先生への手紙」の実践例は、さっそく自校に帰って若い先生方に紹介したいと思いました。
- ・具体的な話を聞いたり、自分でも考えたりすることができて勉強になりました。日頃実践していることも、見方を変え、目標を考えることでキャリア教育になるというのも目からうろこでした。
- ・グループに分かれて意見交換できたことはありがたいです。今後、本校で係会を行う際の大事な資料として参考にさせていただきます。

3 反省と次年度への課題

長野市のすべての小中学校において「キャリア教育全体計画」は作成されているが、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、教科横断、学年・校種横断の具体についてはまだまだ手探りの状態である。講師の先生から、キャリア教育をいかに日常的に行っている教育活動の中に位置付けるかということについて具体的な実践をもとにお話しいただいたことは大変よかった。来年度以降は、キャリア教育の講座を1つにし、内容に、藤澤氏の「企業からの視点でのキャリア教育」と、キャリア教育研究委員会の実践発表を入れていく方向で考えたい。

2. 研修講座構築システムの開発

中核市である本市は、県費教職員研修を実施している。

研修講座の構築においてはこれまで、前年度の講座名、講師、内容、時期などを参考にしながら行ってきたが、本委託事業によってこれまでに開発してきた本市の教職員研修体系に即し、それを十分に生かす体制は未整備であった。

また、受講者数が想定より少ない講座がいくつか見られたが、これは、自己のキャリアアップを計画的に図る視点に弱さがあったり、受講者（教師）が講座情報の詳細を事前に確認する手段が少なく、講座の趣旨が個々の教職員に十分に伝わっていないことなどが原因の一端と考えられた。

このような問題を解決するため、講座構築の段階、受講者の講座選択、受講後の評価の各段階を個別に（１）から（５）までのとおり研究した。

なお、本市は、教職員が誰でも利用できるように教育ネットが整備され、教職員用ポータルサイトが運営されている。

（１）データベース

始めに、企画者が研修講座を立案するにあたり、また、受講者が研修講座の詳細を確認するために、それぞれどのような情報を必要とするかを洗い出し、定義をしてデータベースを設計した。

今回ここでもっとも力を注いだのは、これまで必ずしも明確にしてこなかった「到達目標」の項目である。しかし、連携する大学のシラバス作成の手引などの資料提供や協力者のアドバイスにより、「この講座で受講者が何を学び取らなければならないのか」という「到達目標」の観点を再認識することができ、講座の他の情報も含めて、個々の受講者が直接確認できることは、主体的に講座受講計画を立ててキャリアアップを図るためには特に有効であると確認した。

番号	データ項目名	項目の意味(定義)
1	講座番号	N22 の一覧表の分類に即した番号。前年度の番号を踏襲する。
2	講座名	講座名
3	副題	必要に応じ講座名を補足するもの
4	講座名 —副題—	講座名、副題を合体させて、受講者への案内に自動表示。No14 にチェックの入ったものは（免許状更新講習を兼ねることができる）が追記される。
5	企画者	企画、講師との交渉を中心に講座の根幹を作る者の氏名
6	担当者	教育センター指導主事で、事務的な事柄を担当し企画者と共に講座にあたる者の氏名
7	会場	研修会場
8	部屋	研修会場内の部屋 12 -
9	今年度期日	企画段階では予定の期日を入力し、決定したら修正する。

10	前年度期日	参考として前年度の実施日
11	開始時刻	開会の時刻
12	終了時刻	終了時刻
13	継続区分	前年度を踏まえての継続か新規構築か廃止かを示す。
14	「免許更新兼」区分	講座が免許更新講習を兼ねているかどうかを示す。
15	講座の目的	市が何のためにこの講座を設置したかを示す。
16	講座の到達目標	この講座で受講者が何を学び取らなければならないのかを明らかにし、受講者がそれを学ぶ取ることができたか自己評価する指標ともなるもの。 受講後のアンケートにも使用する。 目的とあいまって、企画者の意図を明確にし、講師との交渉でもそれを伝え、齟齬のないようにする。
17	概要	目的、目標に達するための手段にあたるもの
18	教職員の力量 保育・教科等の専門性	培われる（身につける）教職員の力量のうち 保育・教科等の専門性
19	教職員の力量 経営・管理力	培われる（身につける）教職員の力量のうち 経営・管理力
20	教職員の力量 幼児・児童生徒理解力	培われる（身につける）教職員の力量のうち 幼児児童生徒理解力
21	教職員の力量 見識・人間性	培われる（身につける）教職員の力量のうち 見識・人間性
22	一覧表のための分類(受講者案内用には「講座の分類」)	冊子（「研修講座案内」）に各講座を一覧表として載せるための分類。
23	教科等	「一覧表のための分類」で「教科授業」を選択した場合だけ選択する「教科等」
24	推奨する校種	主催者として受講を推奨したい、教職員の校種
25	推奨する職種	主催者として受講を推奨したい、教職員の職種
26	推奨する校務分掌	主催者として受講を推奨したい、教職員の校務分掌
27	推奨するキャリアステージ	主催者として受講を推奨したい、教職員のキャリアステージ
28	推奨する対象者特記	校種、職種、校務分掌、キャリアステージという分類では示し切れない、受講を推奨したい対象者像。これを書くことで、単純な分類には納まらない企画者意図を伝える。
	以下、講師の情報（略）	

(2) 研修講座企画シート

データベース設計に続き、このデータベースの各項目の情報を 1 枚のシート感覚で記入できる「研修講座企画シート」を表計算ソフトで作成し、入力した情報をデータベースに取り込むことのできる自動システムを、表計算ソフトに付随する機能（マクロ）で作成した。

すべての項目に入力することで、受講対象者をこれまで以上に意識したり、講師を招へいする場合にも狙いや到達目標をより明確に講師に示すなど、講座企画に必要な事項を余さず考慮することができるよう、「研修講座企画シート」の入力の手引も整備した。

(3) 私の研修（資料参照）

昨年度の研究で一旦完成し、今年度から実用している「私の研修（研修のあゆみ）」（教職員自らが自分の研修の経過や計画を記入して管理するシート）だが、次項の講座検索システムと連動して使用できるように、パソコン上で利用できるように改良し、これを使って自らの研修計画を立てる道筋をつけられるようにした。

(4) 「講座情報シート」（受講者閲覧用）（資料参照）

全ての講座情報がデータベースに蓄積できるようになり、このデータベース情報をもとに、受講希望者に必要な情報が講座ごとに 1 枚のシートで見られる様式を設計した。

この情報シートは、講座の内容をより詳しく把握し、自分なりの目標や目的意識をもって研修に臨めるよう、教職員用ポータルサイトに掲載した「私の研修ナビ」を使って自席で、受講を検討する際に限らず、受講決定後等いつでも閲覧することができるようにした。

(5) 私の研修ナビ（講座検索システム）（資料参照）

本市の教職員研修は、年間で約 130 講座あるが、その中から教職員が自分に必要な講座を探し出すためには、検索の仕組みが有効でなる。そこで検索システムを構築した。

本市では、平成 27 年度の研究において、本市の研修講座を「教職員の力量」と「キャリアステージ」という 2 つの軸によって整理・分類する体系図を整備し、これを昨年度及び本年度の研究で継続的に整理し直して現在に至っている。(2)で説明した講座企画者が入力する企画入力シートは、「教職員の力量」の 4 つの分野（データベースの 18 から 21）やキャリアステージの 3 つの分野（同 27）のそれぞれどこに該当するか、また講座の性質や対象者の属性などにチェックを入れるように設計しており受講者用の検索システムでは、これら講座の内容を表す項目をほとんどすべて検索用のキーワードにあらかじめ設定するとともに、フリーワードでの検索も可能にし、求める研修講座にたどりつきやすくした。

3. 研修用ビデオ教材の作成

長野市教育委員会は、長野市教育センター研究委員会（キャリア教育研究委員会、学力向上研究委員会、学校体育・学校保健研究委員会、活用問題検討委員会）を設置し、教育の願いや課題を分析し、学力向上や指導改善を図るための研究を進めた。そして、研究の進捗状況を広く周知し、成果を浸透させるとともに、教師の自己研修の意欲を喚起するために、教育課程に関わる公開授業を実施してきた。

各委員会は、子どもたちの「知・徳・体」をバランスよく伸ばしていくという目標を具現するために、新学習指導要領の実施を見据え、「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」等の視点を踏まえながら、学力向上や指導改善を図るための研究を推進してきた。また、学力向上研究委員会では、国語、社会、算数数学、理科、英語外国語活動の各研究部会を設け、教育課程、指導改善、授業改善等の実践研究を進めてきた。学力の向上を目指し、各種調査を活用して学力の状況を把握・分析し、新学習指導要領の方向を視野に入れた学力向上のための教材開発や指導改善についての実践研究を進め、公開授業・研究会を実施し、研究のまとめとして、研究冊子『長野市の教育』を長野市の公立小・中学校の全教職員に配布している。

本年度の学力向上研究委員会は部会ごとに、小学校1回、中学校1回の合計10回の公開授業及び研究会を実施した。公開授業及び研究会に参加した教職員は、教科等間、校種間のつながりを踏まえて単元を構成することの大切さを学ぶ機会となった。

公開授業及び研究会への長野市教職員の参加人数は171人となり、参加率は、全教職員のおよそ1割であった。この背景には、諸課題へのきめ細かな対応や子どもと向き合う時間を確保するため等の理由で、公開授業及び研究会に参加する時間が十分に確保できないことが考えられた。

そこで、長野市全教職員が、各校の状況や自らのキャリアステージに応じた研修・研究計画に沿って、力量向上を目指す校内研修や自己研修を行うことができるように、長野市教育センター研究委員会の公開授業をもとに研修用ビデオ教材を開発し、長野市ポータルサイトに掲載することを企画した。

校内研修では、はじめに、研修用ビデオ教材と研究冊子『長野市の教育』を併用して、教科等間、校種間のつながりを踏まえて、単元の構想から授業を分析する。

次に、授業ビデオを視聴し、主体的・対話的に学ぶ児童生徒の姿について同僚と意見交換をする。

最後に、授業づくりにおける自分の「強み」と「弱み」について振り返る。

この研修を通して、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることができる教員の育成が可能になる。

校内研修用シート

研修用ビデオ教材	教科	学校
指導改善の重点・方向を確認しましょう。		
単元展開を読み、単元の構想について工夫されていること・改善すること等、気付いたことを書きましょう。		
本時案を読み、研修用ビデオ教材を視聴して児童生徒の姿や教師の姿から気付いたことを書きましょう。		
観点、について、小グループになり意見交換をしましょう。また、単元の構想を意識した授業改善について感じていることや心がけていることについて話し合しましょう。		
授業づくりにおける自分の「強み」と「弱み」を書き出し、研修を振り返りましょう。		

〔資料〕

(1) 研修用ビデオ教材 小学校4学年 国語 単元名「ごんぎつね」

授業ビデオについては、別途お問い合わせください。

本時案

本時の主眼

第3場面で自分と同じ「ひとりぼっち」になった兵十に心を寄せ始めた「ごん」の行動について考えてきた子どもたちが、第5場面の「ごん」の気持ちを考える場面で、心情曲線を使いながら学習グループや全体で叙述をもとにした考えを伝え合うことを通して、「引き合わないなあ」と言いながら、それでも兵十のために何かをしようとする「ごん」の気持ちについて想像を広げながら読むことができる。

本時の位置（全8時間扱い中第6時）

前時：叙述に即しながら、第3場面の「ごん」の行動や気持ちの移り変わりを考えた。

次時：叙述に即しながら、第6場面の「ごん」の行動や気持ちの移り変わりについて考える。

指導上の留意点

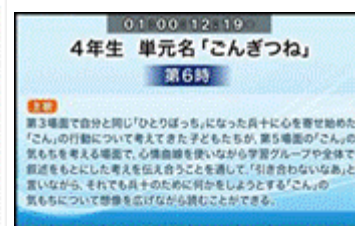
- ・これまで学んできた「ごん」の気持ちの移り変わりの様子を掲示し、話し合いに生かせるようにする。
- ・3～4人の小グループの話し合いでは、相手の考えを大事にできるよう聞き方について確認しておく。

評価規準

「引き合わないなあ」と言いながら、それでも兵十のために何かをしようとする「ごん」の気持ちについて想像を広げながら読んでいる。

展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導 ※評価規準	時間
導入	1 本時の学習問題をつかむ。	今日は、第4・5場面だな。ごんの気持ちは兵十に近づいていくのかな。		3'
		【学習問題】第4・5場面の「ごん」の気持ちの変化について考えよう。		
		叙述をもとに心情曲線をかいていけばよさそうだ。		
展開		【見通し】叙述をもとに『一人と一びき心の動きカード（心情曲線）』をかいていけば、みんなでごんの気持ちを考える事ができそうだ。		
	2 心情曲線に「ごん」の気持ちの変化を書き込む。	・『かげぼうしをふみふみ』と書いてある。きっと、兵十の話をもっと近くで聞きたいと思っているんだ。だから、気持ちは兵十に近づいていると思う。」	自分の考えの根拠となる叙述を書き込むことを確認する。	10'
	3 自分の考えた心情曲線を、学習グループで発表する。	・『いどのそばにしゃがんでいました』とあるから、ずっと待っていたんだ。兵十のことが気になっていんだと思う。」	友だちの考えを聞き、「なるほど」と思ったことや、考えを変えた部分は、赤で書き加えるよう声をかける。	12'
	4 心情曲線とその根拠となる	・二人の会話を聞いて、ごんの気持ちは、ちょっとブルーになったとは思いう…。でも、やっぱり		13'



	叙述を全体で発表する。 兵十のために餅や松茸を届けようという気持ちはあると思うから、この場面では、線がちょっと下がると思う。 ・「加介が兵十にあんなことを言うからいけないんだよ…」という怒った気持ちがある。だから、線はちょっと下がるんじゃないかな。 ・「オレ（ごん）がうなぎや魚を逃がすようないたずらをしたからな…。兵十には、わかってもらえないかも…」とがっかりした。だから線もちょっと下がる。でも、これからもうりや松茸は届けようという気持ちはあるから、すぐに線は上がってくると思う。 ・「あーあ、いっそのこと、オレ（ごん）が栗や松茸を持って行ったんだよって言っちゃおうかな…」と思っているから、ちょっと線は下がると思う。 ・「でも、次の第6場面には『その明くる日も』と書いてあるから、きっと気持ちは折れずに、兵十になにかしたいと思っていると思う。心は離れていない！」 ・『かげぼうしをふみふみ』しているくらい兵十のことが気になっているから、そう簡単に気持ちは変わらないと思う。」	※評価規準 「引き合わないなあ」と言いながら、それでも兵十のために何かをしようとする「ごん」の気持ちについて想像を広げながら読んでいる。	
終末	本時の学習の振り返り「ごんの一言日記」を書き、発表する。 ・「オレのこと、気づいてほしいな。でも、やっぱりうなぎのことで怒るよな。おれのせいでおっかあが死んじゃったんだもん。言えないよなあ。」 ・「ちょっと、オレがいろいろ持っていていっているのにな。いやになっちゃう。でも、そんなことくらいで、贈り物をやめないぞ。」	本時の振り返りを書く時間を設け、その振り返りに共感する。	7'



(2) 研修用ビデオ教材 中学校3学年 社会 単元名「国の政治の仕組み」

本時案

主眼

民主政治のあり方や国会の仕組みや仕事について学習した生徒たちが、衆議院と参議院の性質や役割を表すキャッチコピーを考える場面で、それぞれが考えたキャッチコピーの根拠を説明し合うことを通して、二院制の意義を考えることができる。

本時の位置(全8時間中 第3時)

前時：国会のはたらきを学び、学習内容をもとにしてキャッチコピーを考える。

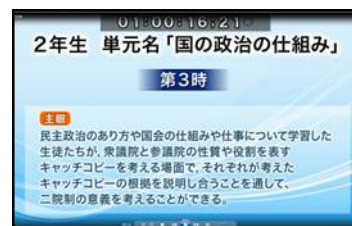
次時：国会と連携している内閣の仕組みと議院内閣制について理解する。

指導上の留意点

各グループで考えたキャッチコピーをフラッシュカードに記入して掲示することで比較しやすくする。

展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導・支援・資料・評価	時
導入	学習問題：我が国の国会ではなぜ二院制を採用しているのだろう。 学習課題：衆議院と参議院のちがいをキャッチコピーにしよう。 1. 前時に考えた各席のキャッチコピーを掲示して学習を振り返る。 2. 本時の活動を確認する。	・ 前回は衆議院と参議院のキャッチコピーを考えた。 ・ 対になるようにすることが大切だったな。	○ 本時は根拠を説明することが重要になることを確認する。 ○ 自分で興味のある席を選んで考えを聞くようにする。	5分
展開	課題③：他の席との意見交換を通して、対になる参議院のキャッチコピーを思考しよう。 3. 各席で考えたキャッチコピーについての意見交換をする。 4. 席のキャッチコピーを修正する。 5. 修正したキャッチコピーを掲示して、根拠を説明する。	・ 他の席はどのように考えているんだろう。 ・ いろんな席の考えを聞いて、更に良いキャッチコピーにしよう。 ・ 参議院だけだったら…参議院の考えで政治が動いてしまうかもしれない。 ・ 参議院の方が民意をスピーディに取り入れることができそうだな。 ・ 参議院も必要な感じがしてきたぞ。 ・ 安保関連法成立の時に、参議院の案を参議院が賛成しているぞ。 ・ やはり参議院の方が力を持っている感じがする。 ・ 法案審議を参議院でやることで慎重な審議ができるんだな。 ・ 衆議院と参議院で対になるものがあるな。	○ 席の考えを説明する人、他の席の考えを聞く人に分ける。役割を交代して同じ活動を行う。自分たちの席にはなかった考えがあればメモをとるようにする。 ○ 説明する人は資料を求めながら、キャッチコピーの根拠を説明する。 ・ 聞きに行く席で聞いている場合は、自分たちの席とちがうキャッチコピーを考えた席に行くようにする。 ● 国会のしくみ（資料集2.44, 65） ● 国会のはたらき（資料集2.46, 67） ※ 参院イ ○ 修正する時には、なぜそのように修正したのか説明できるようにする。 ○ 修正したキャッチコピーはフラッシュカードの裏面に記入する。 ○ 各席でまとめたキャッチコピーを見て、その根拠を聞いてみたいものを聞く。 ○ 自分たちの席では出なかった考えを中心にメモをとるようにする。	20分 10分 10分
まとめ	6. 学習問題の結論をまとめる	・ 参議院は必要ないと思っていたが、参議院があれば衆議院が解散するたびに不安定になってしまう。 ・ 国民の意見を反映しやすい衆議院と、参議院の行き過ぎを抑え憲法に審議をする参議院の両方があることで、国民主権を守りながら憲法などに違反しない政治を進めることができる。	○ 前時と本時で分かったことを根拠としてまとめるようにする。	5分



(3) 研修用ビデオ教材 小学校3学年 算数 単元名「重さ」

本時案

主眼

ものの重さを予想することは難しいと感じている子どもたちが、砂やペットボトルキャップなどを使って1kgの重さをつくる「重さビンゴ大会」の場面で、自分でつくった「重さアイテム」を使ったり、友だちと比べたりしながら1kgをつくることを通して、1kgの重さの量感を養うことができる。

本時の位置 9時間扱い中の第6時

前時：重さの単位にはkgもあることを知り、身の回りのいろいろなものの重さを測定した。

重さの予想するためのヒントの重さ（「重さアイテム」）を見つけた。

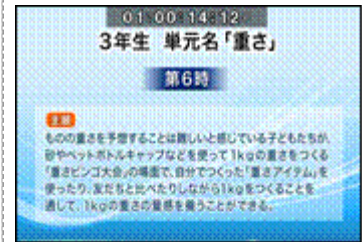
次時：重さを予想して、使うはかりを決めてから測定する。

指導上の留意点

- ・ 許容範囲を前後100gとし、近づくまで何度も挑戦するようにする。
- ・ 実際に触れて確かめることができるように1kgの重さの砂や重さが分かっている既習のものを用意しておく。

展開

時	学習活動	予想される児童の反応	指導・評価	時
1	前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 ・1kgの重さをつくりかたを考える。	1kgの重さをつくらせて「重さビンゴマン」になろう! ・1kgかあ。 ・できるかな。 ・ピッタリじゃなくちゃダメ? ・重さを予想しただけでぜんぜん当たらなかった。 ・見た感じと重さが違うから測った。 ・秤でみてみてもわからなかった。 ・重さは難しい。 ・手で持って確かめてみる。 ・重さアイテムを持って〇〇は〇〇gだから〇〇分の重さをつければいい。 ・1kgは一番重いアイテムを使えばいいと思う。 ・友だちと比べてもいいかな。 重さアイテムをヒントにして1kgに近づけよう。	・「1kgの重さをつくる重さビンゴ大会を始めます。」 ・「この前いろいろな重さを予想して集めてみたけどどうだったかな。」 ・「どうしたら重さビンゴマンになれるかな。」 ・「1kgをつくらんときの作戦を教えてください。」 ・ペアの友だちと相談しながら同じものを使って1kgをつくることを伝える。 ・様々な材料（砂・小石・ペットボトルキャップ・粘土・水・おはじきなど）を用意しておく。 ・「重さを体で感じられるようになったら重さビンゴマンだね。」	1
2	材料を選んで1kgの重さをつくる。 ・既習の重さをもとに1kgをつくる。 ・友だちと比べてみる。 ・前に持ってきて測ってもらい、	・1kgってこれくらいかな。 ・ペットボトルキャップは軽いからたくさん入れないと1kgにならないんじゃない? ・重さアイテムを持って比べてみよう。 ・〇〇より軽い（重い）気がするなあ。 ・〇〇くん、交換して比べてみよう。 ・きつと1kgに近づいたら先生のところに持ってきて。	・「どんなふうにつくるの？」と聞いてみる。適当ではなく、今まで測定してきた重さをもとにしながら考えられるようにする。 ・「1kgが使われた前につけてきて測ってもらおう。」 ・前後1kgになるまで何度も挑戦するようにする。 ・測っている児童には、今まで測ったものと比べて、用意しておいた1kgの秤で確かめたりするように促す。 ・ペアの友だちも同じで確かめあわせる。 ・持ってきたものの重さをはかり、記録する。（児童には重さは伝えない。） ・前時範囲に近づくという場合は、「重さぎるよ」「軽さぎるよ」「もう一度重さアイテムの〇〇とくらべてみるわね。」と伝ええる。 ・なかなか近づかない児童には1kgの秤を持たせたり、不足の重さを粘土、その重さのものを秤で確認したりできるようにする。 ・合格した児童には、実際に秤で測定して確かめたり、他の材料に移って1kgをつくらせたりするように促す。	2
3	重さビンゴマンを紹介する。	・重さぎたから少し減らそう。 ・軽さぎたから増やそう。 ・どのくらい増やせば「軽さぎるよ」っていうかなあ。 ・もう一度1kgのヒントを持ってみよう。 ・ほとんど1kgだ! ・ピッタリではなくて残念。 ・嬉しい! あつ〇〇gでピッタリだった。 ・次は〇〇gで1kgをつくらね。 ・もっと早くつかれるかな。 ・〇〇君はすでに1kgをつくられてすごいなあ。 ・重さアイテムの〇〇を手持って比べたよ。 ・重さアイテムは重さぎるよだったからその2つ分でも増やそうと考えた。 ・〇〇君の1kgがヒントになった。 ・ペアの友だちと交換して持ってきて比べて考えたよ。 ・1kgが粘土と両方の手に持って材料をたいてはじめてみたよ。 ・全然1kgだ。 ・みんな1kgだけじゃ全然感じは全然違う。 ・同じ1kgでも大きさや形が違うから不思議だな。 ・重さは実際に持ってみないと分からないな。	・「どうやって1kgをつくらせたのか教えてくれない?」 ・適当ではなく、自分なりの戦略を持って1kgをつくらせようとした姿を認めるようにする。 ・いろいろな1kgを見て知ったことはないかな。」と聞いてみる。共通点（すべて1kgであること）と、違う点（大きさや形）について考え、同じ1kgでも見た目が様々であることを感じさせる。	3
4	1kgのものを測す。	・りんごかなあ? ・実際に持ってみないとわからないよ。 ・牛乳瓶は重いと思うな。 ・全然1kgじゃない?	・「わたし、牛乳瓶、りんご、1両玉などを用意し、「1kgのものはどれでしょう。」と問う。」	4
5	重さ日記を書く。	・なかなか1kgにならなくて難しかった。 ・体で重さを感じるとって難しいな。 ・この前量ったものがヒントになってすぐにできたよ。 ・1kgって思ってたよりも重い（軽い）と思った。 ・もう1kgがわかるかも。 ・重さアイテムや1kgの重さを感じておくようにしたい。 ・同じ1kgでも大きさや形が違うってびっくりした。 ・重さって難しいな。でも1kgを感じておきたいです。 ・1kgを体で覚えたから重さビンゴマンに近づけた気がする。	・「重さビンゴ大会はどうでしたか。1kgをつくらせようポイントや感じたことを重さ日記に書いてみよう。」 ・本時を振り返って気づいたことや感想を書く。 重さアイテムを使ったり友だちと比べたりしながら1kgの重さを感じることができたよ。 (つゆあき・潤香・ノート)	5



(4) 研修用ビデオ教材 中学校2学年 理科 単元名「天気とその変化」

本時案

主眼

洗濯物が乾く仕組みを学習した生徒が、AとBのどちらの部屋の方が、洗濯物が乾きやすいかを明らかにする場面で、空気中に含むことができる水蒸気量に着目し、洗濯物の乾き方を比べる実験を行い、飽和水蒸気量曲線や図を用いて、乾き方に違いが生じた理由を考えることを通して、どちらの部屋が乾きやすいかを根拠をもって説明することができる。

本時の位置（全6時間中の第6時）

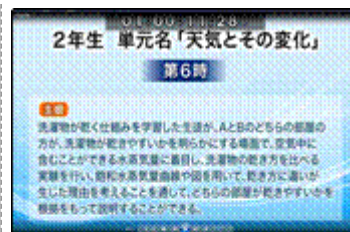
前時：洗濯物が乾く仕組みを学び、洗濯物から水蒸気が放出される様子をグラフや図を用いて表現する。

指導上の留意点

- ・ABの部屋はそれぞれ小型のビニールハウスを用意して、Aの部屋は気温と湿度が高く、Bの部屋は気温と湿度が低くなるように設定し、気温と湿度の両面を意識した学習ができるようにする。
- ・洗濯物に見立てた水筆紙に含ませる水の量を同じにして、条件を統一して実験を行う。

展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	支援・評価	時間	備考
導入	【学習問題】洗濯物が乾きやすいのは、AとBのどちらの部屋だろうか。 1 どちらが乾きやすいか予想する。(個)	○Aの方が、気温が高いためAの方が乾くかな。 ○Bの方が、湿度が低く乾燥しているからBの方が乾くと思う。 ○洗濯物の乾きやすさは、あとどれくらい水蒸気を含めるかだから、計算してみよう。 ○計算してみるとAの部屋の方が含める水蒸気量が多いから、Aの部屋が乾きやすいと思う。 ○本場にそんなのは嫌だからやめたい。	○部屋の条件は、学習問題と一緒に提示する。 ○予想の場面では、洗濯物が乾く仕組みを想起できるように、実験の学習内容を聞く。	10	学習カード
展開	【学習課題】どちらの部屋が乾きやすいか調べ、そのようになった理由を説明しよう。 2 実験を行い、Aの方が乾きやすいことを確認する。(全体)	○2つの洗濯物に水を垂らして、乾き方を比べてみよう。 ○Aの方は乾ききったけど、Bはまだ乾いていない。 ○Aは10秒で乾ききったのに対して、Bは20秒かかったのだから、Aの部屋の方が乾きやすいことが分かる。 ○まだ含める水蒸気量を計算しよう。 ○私は気温と飽和水蒸気量のグラフを使って説明しよう。 ○横軸図を使って説明しよう。 ○1人だと難しいな。隣の友達はどうやって書いているのだろう。	○2つの実験の違った結果を想起し、水筆紙に水を1滴たらし、乾き具合を観察する。 ○説明が書けない生徒には、これまで学習した学習カードを見ながら考えるように促す。	10	学習カード
展開	3 個人で説明を考える。 4 ペアで説明を作り上げる。(ペア)	○まだ含める水蒸気量を計算しよう。 ○私は気温と飽和水蒸気量のグラフを使って説明しよう。 ○横軸図を使って説明しよう。 ○1人だと難しいな。隣の友達はどうやって書いているのだろう。 ○2人でホワイトボードに説明を書こう。 ○計算した内容をグラフでも書いてみよう。 ○部屋Aは、まだ含める水蒸気量が、○Bの部屋に比べて、部屋Bは、○Bの部屋の方が乾きやすいといえる。 ○数値や図で表してみると、どちらが乾きやすいのかがよく分かる。 ○私たちがまとめたことを実際に説明してみよう。 ○予想や実験で確認した通り、その空気にあとどれだけ水蒸気を含めるかを考えれば、洗濯物の乾きやすさが分かるんだ。 ○お天気ニュースでやっている洗濯物の乾きやすさも、こうやっているのかな。	○文章だけでなく、図やグラフといったものでも説明するように指示する。 ○定規Aが乾きやすい理由を説明できているか。説明の作成の準備の図で評価する。(○・△)	5	ホワイトボード
展開	5 友達に説明する。 6 全体で発表をする。	○説明が書けない生徒には、これまで学習した学習カードを見ながら考えるように促す。 ○気温や湿度によって決まる洗濯物量があることを知らせ、学習内容が私たちの生活に関わりが深いことを実感できるようにする。	○全員が一度は説明できるようにする。 ○気温や湿度によって決まる洗濯物量があることを知らせ、学習内容が私たちの生活に関わりが深いことを実感できるようにする。	5	学習カード
まとめ	7 本時の学習を振り返る。	○これまで学習したことでのまわりのことが、説明できて面白かった。		5	



(5) 研修用ビデオ教材 小学校6学年 外国語活動 単元名「道案内をしよう」

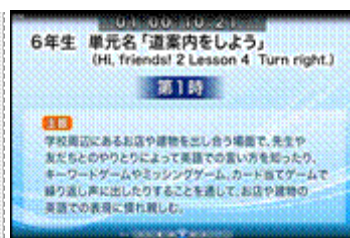
本時案

主眼

学校周辺にあるお店や建物を出し合う場面で、先生や友だちとのやりとりによって英語での言い方を知ったり、キーワードゲームやミッシングゲーム、カード当てゲームで繰り返し声に出したりすることを通して、お店や建物の英語での表現に慣れ親しむ。

展開

時	学習活動	予想される児童の反応	展開・指導・評価	時	教材
導入	1 あいさつ 2 warm up Can you ~?を使った small talk	・今日はどんなことを質問 するのかな。	Let's enjoy the class! ・今日の質問の内容を全体 で確認し、互いの友達と やりとりをする。	5	
	3 Today's goal を確認 する	・学校は school だな。	・学校周辺の地図を示し、 どんなお店や建物があ るかを聞いて、Today's goal を設定する。	3	学校周 辺の地 図
	4 児童の言葉で Today's point を確認 する	Today's goal いろいろなお店や建物を 言ってみよう。 ・他にも英語で言えるお店 や建物があるぞ。 ・はっきりと大きな声で、 先生や友だちの英語をよく 聞く。	・ふり返りカードに Today's goal を記入さ せる。	2	ふり返 りカー ド
展開	5 学校周辺のお店や建 物の表現を知る	・近くに消防署と交番があ るな。 ・スーパーや食事がたさん あるぞ。 ・スーパーは super- market、コンビニは convenience storeと 言うのだな。	・学校周辺にあるお店や建 物を想起させ英語で言 えるか問う。地図上に絵 カードをはる。 ・日本語と英語で表現が異 なるものがあることを 伝える。 ・絵カードで示し、英語で 言ってみる。	12	絵カー ド
	6 キーワードゲーム とミッシングゲームを する	・先生の英語を集中して聞 くぞ。 ・大きな声で活動に参加 するぞ。 ・英語を聞くだけで、何を 表しているのかわかっ たぞ。	・黒板に貼られた絵カード を使ってキーワードゲ ームとミッシングゲ ームを行う。 ・英語の発音が難しい表現 については、ゲームを止 めて繰り返し練習する。	10	
	7 グループでカード 当てゲームをする。	・覚えた英語を素早く言 うぞ。 ・友だちの英語を聞いて、 英語での言い方を確認 できた。 ・お店や建物の英語を使っ て、もっといろいろな活 動をしたいな。	・絵カードやジョイスター を使いながら英語で ルールの説明を行う。 ・日本語を使わず、英語で 活動できるよう伝える。 日本語と英語で表し方 が同じものや違うもの があることに気づき、活 動できた。ウー① ①活動の振り返り・ふり返りカード	8	ミニ絵 カード
まとめ	8 授業ふり返り、 カードに記入する	・たくさんのお店や建物の 英語を覚えられた。 ・もっとたくさん英語 を覚えたいな。 ・覚えた言葉を使って友だ ちと英語で話したい。 ・次の時間もがんばるぞ。	・ふり返りカードに記入す る。 ・数名に発表してもらい、 お店や建物を表す表現 に慣れ親しむことがで きた。イ①② ①ふり返りカード ②Goodbye, everyone.	5	ふり返 りカー ド
	9 あいさつ				



(6) 長野市ポータルサイト上の画面のイメージ

教員研修ビデオ教材

～教員研修プログラム開発研究会～

校内研修用シート

【国語】
 長野市 C 小学校 4 年 国語
 単元名「ごんぎつね」
[学習指導案](#) [公開授業動画](#)

【社会】
 長野市 F 中学校 2 年 社会
 単元名「国の政治の仕組み」
[学習指導案](#) [公開授業動画](#)

【算数・数学】
 長野市 G 小学校 3 年 算数
 単元名「重さ」
[学習指導案](#) [公開授業動画](#)

自主研修用シート

【理科】
 長野市 J 中学校 2 年 理科
 単元名「天気とその変化」
[学習指導案](#) [公開授業動画](#)

【英語・外国語活動】
 長野市 K 小学校 6 年 外国語活動
 単元名「道案内をしよう」
[学習指導案](#) [公開授業動画](#)

「チャレンジベースで持久力アップ」
[説明動画](#) [音源](#)
 学 習
カ ー ド
 ① 初級用チャレンジベースの説明
 ② チャレンジベースについて
 ③ チャレンジベース・記録表
 ④ チャレンジベースまとめカード
 授業提供 長野市教育センター教育研究委員会

5. 本研修プログラム開発の成果と今後の課題

(1) 成果

- ・教職員のカリキュラム・マネジメント能力育成のための研修における受講者のアンケート調査や講座担当者の分析から、研修を講師による講義と各学校の取り組み及び自らの研究や実践の情報を交換したり、討議したりして、互いの教育実践の共有化を図る内容とすることで、カリキュラム・マネジメント能力がこれからの教職員に必要な能力であることの理解を深めることができた。
- ・これまで、受講後アンケートで「満足度」を尋ねていたが、各講座の「到達目標」をあらかじめ明示することにしたため、「到達目標に基づく達成度の自己評価」を尋ねることができ、企画者は受講者による自己評価によって、より必要性に配慮した講座の構築が可能になる。
- ・講座構築と検索を連動させたシステムの開発によって、供給側（教育センター）の意図と需要側（教職員）の必要性が有機的に結びつくようになる。受講者は企画者の意図をよりよく理解したうえで自らのキャリアステージに即した講座を見つけ、計画的にキャリアアップを図れるようになることが期待できる。
- ・研修用ビデオ教材は、長野市ポータルサイトに掲載することで、長野市全教職員が、各校の状況や自らのキャリアステージに応じた研修・研究計画に沿って、力量向上を目指すことが可能となる。また、平成30年度より長野市立小・中学校で校内研修及び自主研修、教育センターの指定研修等で使用することで、教科等間、校種間のつながりを考えた授業改善を図ることに有効である。

(2) 今後の課題

- ・本年度は、7講座を教職員のカリキュラム・マネジメント能力育成のための研修として開設した。受講者の年代別の合計人数は、20代が4人、30代が42人、40代が38人となった。また、50代は78人であった。50代の教職員の受講者数は、管理職を除くと23人となり、20代の次に受講人数が少なかった。20代～40代の教職員は、長野市教育センターの指定研修（初任者研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修、キャリアアップ研修）の中で、キャリアステージに応じた研修計画に沿ってカリキュラム・マネジメント能力を培うことが可能である。今後、50代の教職員の割合が増加していく本市は、学校づくりの中心となる50代の教職員に対してのカリキュラム・マネジメント能力の育成が課題である。そのため、平成30年度より、40代後半から50代の指定研修を実施し、学校づくりに関わる研修「キャリアアップ研修」を開設し、50代の教職員のカリキュラム・マネジメント能力の育成を目指す。
- ・今回構築した講座構築システムは、平成30年度講座の構築においても使用したが、その講座の目的や到達目標その他の属性を明確にするというこのシステムを使った講座構築が教職員の講座選びのキーポイントになっているということ、またそれが受講者の自己評価としてフィードバックされ、さらに次年度の講座構築の基礎となっていくことなどの意義の共有が不十分であったため、これを徹底していくことが必要である。

- ・研修用ビデオ教材を校内研修や自主研修で活用していくために、教職員に広く周知していくことが大切である。また、研修用ビデオ教材を活用した校内研修や自主研修が教職員にとってどのような成果を得ることができたかを検証していくことが必要である。
- ・平成29年4月に新たに策定された第二次長野市教育振興基本計画に沿って、小・中・高の相互のカリキュラムを関連付けながら、各学校、各学年におけるカリキュラムをより充実し、改善するための研修プログラム開発については、来年度以降もさらに継続して研究していく必要がある。特に、本年度開校した市立長野中学校（市立長野高等学校と併設型の中・高一貫教育校）を基幹校として、市内共通の中・高を一貫するカリキュラム開発を進めていく。カリキュラムの整備に併せて、各学校では、地域性を基盤においた学校目標やグランドデザインも吟味・改善して、教育実践の充実を図り、長野市教育振興基本計画の具現を図り、さらには、長野市の目指す人間像「グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した18歳」の育成を目指していく。

連携による研修についての考察

長野市教育委員会は、研修プログラムの開発に当たって、平成18年度から信州大学を主とする連携機関としてほぼ毎年様々な事業を共同で実施してきた。その成果は、長野市教育委員会事務局の取り組みに活かされており、長野市教育センターが実施している指定研修や教職員研修講座の内容や教育研究に反映されてきた。

具体的には、「教師としてのキャリアデザイン設計を意識した課題探究型初任者研修プログラム」（平成24年）、「学力向上・生徒指導の充実を支える教員のキャリア成長に合わせた教員研修プログラム」（平成25年度）、「教育センター集合研修と教員免許状更新講習との協調によるミドルリーダー育成研修プログラムの開発」（平成26-27年度）に取り組んできた。

これらを踏まえ本誌の教職員研修は、5年経験者研修や10年経験者研修、キャリアアップ研修等による節目での研修という捉え方から、初任から定年まで一貫性のある自己研修一つ一つの積み重ねという捉え方に大きく舵を切り、平成28年度には、教育センターの研修を教員一人一人のキャリアステージに応じた研修という視点で、研修体系を作成し、これまでに実施されてきた研修講座をこの体系に沿って見直してきた。また、「私の研修」（研修履歴）の活用についても検討を進めてきた。

本研修プログラム開発に当たっては、長野市教育委員会指導主事等が主となって実施してきたが、連携相手である信州大学教授等との毎月1回の共同研究会や随時の相談を実施し、研究及び作成作業等について情報を共有し、教員研修の改善や充実を図ることで、確かな理論と具体的な実践のある研修プログラムが開発できると考えている。

その他

[キーワード] カリキュラム・マネジメント 力量向上 講座検索システム 私の研修
 研修履歴 研修用ビデオ教材 校内研修 自主研修

[人数規模] D

[研修日数(回数)] C

【問い合わせ先】

長野市教育委員会（長野市教育センター）〒380-0905 長野県長野市大字鶴賀 550 番地 2

TEL 026-223-7486 / 026-264-7570

E - m a i l . syotyouhosa@nagano-ngn.ed.jp